

## 病理レジデントコース

### 1) 病理研修のススメ

病理部では初期研修を終了した研修医より病理部での後期研修を希望される先生を募集しております。

将来、病理専門医を希望する先生のみならず、臨床医を目指す先生も、後期研修として病理部を選択されることをお奨めします。

病理医が医療において果たす役割は大きく、病理医なくして良質な医療は行えないことは初期研修で理解されたことと思います。

より良き病理医および臨床医の育成を目指しております。

### 2) 病理部後期研修カリキュラム

3年間の病理部研修により、一般病理医として独自に病理診断、種々の病理学的検索を遂行できる医師を育成することを目標にします。

また、1年間、大学での研修、研究を希望される場合は新潟大学大学院医歯学総合研究科細胞機能講座における研修が可能です。

#### 1. 一般的研修目標

病理の医療における役割、意義、重要性を理解

病理も臨床と同様、医師と検査技師そのほかの人達との共同作業であることを理解

病理診断も総合診断であり、臨床情報の理解、臨床医との連携の重要性を理解

#### 2. 個別的研修目標

病理解剖について研修

死体解剖保存法などの基本的な法知識を理解

自ら病理解剖を執刀し、病理解剖の手順、肉眼像のみかた、病変部の切り出し、組織のみかた、症例のまとめ、解剖報告書の作成

CPCに参加、症例を提示（月一回開催）

生検、手術材料の病理診断について研修

肉眼所見の記載、検査目的に合致した切り出しを行う

必要に応じ、特殊検索(捺印細胞診、免疫学的、電子顕微鏡的、分子病理学的検索など)用に処置できる

組織学的所見を正確に把握し、記載することができる

特殊検査(特殊染色、免疫組織化学、分子病理など)の知識を有し、適切にオーダーし、結果を的確に判断できる

## 細胞診について研修

検体を適切に処理できる

細胞診標本のスクリーニングを行い、基本的病変を指摘することができる

悪性細胞について組織型を推定できる

## 迅速診断

肉眼所見を正しく把握し、適切な切り出しを行い、一定時間内に正確な迅速診断を報告することができる

## 病理標本を用いた研究に必要な手技を自ら行う

各種免疫染色、ISH 法による EB ウイルスなどの同定、FISH 法による検索、遺伝子診断など

## 3) 教育に関する事項

1.初期研修に対する集中講義

2.定期的なカンファランス

診断病理カンファランス、病院の CPC、肺癌を中心とした呼吸器疾患検討会、消化器疾患検討会。血液疾患検討会、乳癌検討会、テレビカンファランス(週一回行われている国立がんセンター中央病院を中心にごん専門施設を結ぶ検討会)など

3.学会発表、論文作成

## 4) 指導体制

指導責任者 研究部長 本間慶一

当病理部は病理医が4名おり、それぞれ専門分野を持ち多彩な指導が可能である  
それぞれの指導医のもとで一定期間、マンツーマンによる指導を受ける

## 5) 参加協力施設

希望に応じ3年目には、新潟大学大学院医歯学総合研究科細胞機能講座、内藤眞教授および新潟大学医歯学総合研究科分子細胞学専攻、味岡洋一教授のもとで実験病理、基礎的研究も可能

## 6) 定員

研修枠は1名

選考方法はプログラム責任者が面接により決定する